

【担当教員】

浅井 達雄

【教員室または連絡先】

総合研究棟505室(浅井)

【授業目的及び達成目標】

[授業目的]

経営戦略と情報戦略との関係から説き起こし、経営情報システムに求められる要件の位置づけ明確化した上で、これらを踏まえた情報システム計画立案の全体像を理解する。

[達成目標]

情報システムのライフサイクルを踏まえ、情報システムの計画ができるようになる。

【授業キーワード】

経営戦略、経営計画、情報システム計画、開発モデル、オブジェクト指向、インターネット、マルチメディア、分散処理、オープン・システム、コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション、カスタマー・リレーションシップ・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント、ナレッジ・マネジメント、電子商取引 など

【授業内容及び授業方法】

・講義は、AV機器を活用して行う。

・講義資料は、学内ホームページ <http://kjs.nagaokaut.ac.jp/asai/lec/> に掲載する。

【授業項目】

第1章 情報システム計画の概要

第1節 意義

第2節 対象

第3節 最新技術

第4節 作成方法

第5節 内容

第6節 実行

第2章 企業経営と情報システム計画

第1節 企業経営

第2節 企業経営のパラダイム・シフト

第3節 経営戦略と情報戦略

第4節 情報技術の適用事例

第5節 情報システムの事例－CRM、eコマース他

第6節 経営計画と情報システム計画

第3章 全体計画

第1節 情報戦略の立案

第2節 情報システム化の構想

第3節 情報システムの企画

第4節 実現方法の検討

第5節 情報化投資の検討

第6節 実施案の作成

【教科書】

(教科書は使用しない。)

【参考書】

「情報システム計画論」西村一則ほか、コロナ社

【成績の評価方法と評価項目】

1. 成績評価

・期末試験で評価する。

2. 評価項目にはつぎの項目を含める。

・講義で指摘した主要事項が説明できるか

・講義内容が体系的に知識として整理されて身につけているか

・それをもとに発展的に自ら思考できるか

【留意事項】

1. 講義資料は学内ホームページに掲載するので、必要に応じ、各自、印刷して授業に持参すること

2. ホームページ掲載の資料をもとに、予習、復習を徹底すること

3. 質問はホームページに掲載のメールアドレスでいつでも受け付ける。

4. ホームページには連絡事項も掲載するので1週間に2度は参照すること。

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/asai/lec/>

浅井教授のページ

【担当教員】

志田 敬介

【教員室または連絡先】

総合研究棟 504室 (E-mail:shida@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

本講義では、企業活動における経営工学の役割や「改善のための発想」に重点をおいた仕事の方法の分析、仕事の時間の把握、ライン設計の基礎知識に関して解説し、それらの知識の習得を達成目標とする。

【授業キーワード】

インダストリアル・エンジニアリング、生産性、動作研究、時間研究、改善技術、管理技術

【授業内容及び授業方法】

授業内容は、下記の授業項目に示したものと、それらに関連するものとする。原則として次の要領で授業を行う。

- (1) 講義と演習を主体とする
- (2) 講義前に簡単なクイズを実施する

【授業項目】

1. 生産性と経営工学の歴史(2回)
インダストリアル・エンジニアリング、改善事例
2. 動作研究(9回)
工程分析、マンマシン分析、サーブリグ分析、仕事の構造
3. 時間研究(3回)
ワークサンプリング、標準時間、ラインバランスング

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

藤田彰久著「IEの基礎」(建帛社)

【成績の評価方法と評価項目】

学期末の筆記試験によって評価する。

【担当教員】

福村 好美

【教員室または連絡先】

eラーニング研究実践センター(語学センター棟210)

【授業目的及び達成目標】

【授業目的】

情報社会におけるコンピュータおよびインターネットの適切な利用について、社会的規範、礼儀、法令、技術などの面から基本的な考え方を理解する。

【授業目標】

- (1)情報社会において遵守すべきルール・マナーを理解する。
- (2)インターネットの社会基盤としての特性を把握し、利点とリスクを認識する。
- (3)安心な情報社会を実現するための技術・施策に関する基礎知識を修得する。

【授業キーワード】

コンピュータ、インターネット、情報倫理、法令、個人情報、知的財産権、セキュリティ、マナー

【授業内容及び授業方法】

最近の具体的事例などを用いて、PowerPointによる解説とそれに関する演習・議論を行う。

【授業項目】

- ・情報社会の特質と課題
- ・情報システムの生活での利用とリスク
- ・情報システムのビジネスへの応用と問題点
- ・情報システムの教育への適用と課題
- ・情報社会における知的財産権
- ・情報社会における個人情報
- ・情報社会におけるコミュニケーション
- ・情報社会におけるセキュリティ
- ・事例研究

【教科書】

なし

【参考書】

授業の中で提示する。

【成績の評価方法と評価項目】

学期末試験、レポート、受講状況などにより総合的に評価する。

【担当教員】

全教員

【教員室または連絡先】

物質材料・経営情報1号棟304室(吉田)

【授業目的及び達成目標】

1. 授業目的
オブジェクト指向に関する諸概念を理解し、オブジェクト指向に基づいたプログラミング手法を習得することを目的とする。
2. 達成目標
 - ・オブジェクト指向に基づいてプログラムを作成できること。
 - ・オブジェクト指向に基づいて作成されたプログラムを理解できること。
 - ・UMLにおける基本的な図を作成、及び理解できること。

【授業キーワード】

プログラミング, オブジェクト指向, UML, Java

【授業内容及び授業方法】

担当教員が毎回テーマにそって必要な説明を行いながら、関連する操作方法を指導する。
学生は各自の端末で、実際にハード・ソフトを操作しながらその方法を修得する。

【授業項目】

1. プログラムの基礎
2. 基本文法
3. プログラミング
4. オブジェクト指向
5. UML
6. オブジェクト指向プログラミング

【教科書】

高橋麻奈「やさしいJava第3版」ソフトバンクパブリッシング

【参考書】

特になし。

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
以下の配分で評価、採点を行う。
学習態度20%、提出レポート80%
2. 評価項目
 - ・各実験項目について、実験の目的と内容を十分理解しているか。
 - ・実験結果を踏まえて十分な考察を行っているか。
 - ・読み手の立場に立ったわかりやすいレポートを書くことができるか。

【留意事項】

「オブジェクト指向プログラミング」を併せて履修することが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

特になし。
特になし。

【担当教員】

全教員

【教員室または連絡先】

物質材料・経営情報1号棟304室(内線9352、fyoshida@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

〔授業目的〕

経営目標を達成するための経営上の課題を分析し、それに基づいて情報システム計画を策定し、さらにそれに基づいて具体的な適用業務システム例をとり上げてその要件定義から基本設計までを演習によって修得する。

〔達成目標〕

- ・経営目標を達成するための経営上の課題に関する基本的な分析を行うことができる。
- ・経営課題を踏まえて情報システムの基本的な計画を立案することができる。
- ・情報システム計画に基づいて情報システムの基本的な要件を抽出することができる。
- ・情報システムの要件から情報システムの基本設計を行うことができる。

【授業キーワード】

経営戦略、経営計画、情報システム、基本設計

【授業内容及び授業方法】

〔授業内容〕

実際の企業における情報システムの導入事例を演習可能な程度に簡略化した課題を用意する。関連知識とともに課題の背景や必要な情報を説明する。実際の企業での導入事例を示し演習の成果と比較して考察を行う。

〔授業方法〕

教員が、必要な関連事項を説明し課題を提示する。受講者は、教員の指導のもとで、与えられた課題について演習を進める。

【授業項目】

- 1) 経営戦略に基づいた情報システム戦略企画の策定演習
- 2) 業務分析からシステム化基本計画書の作成までの演習
- 3) 適用業務システム基本設計書の作成演習

【教科書】

教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

指定しない。

【成績の評価方法と評価項目】

〔評価方法〕

提出レポートにて評価を行う。

〔評価項目〕

- ・経営課題から情報システム計画立案までの過程を論理的に説明できるか。
- ・立案した情報システム計画をわかりやすく説明できるか。

【留意事項】

「情報システム計画」の講義内容に基づき演習を行うので、平行して「情報システム計画」を履修すること、あるいは履修済みであることが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

なし。

なし。

【担当教員】

全教員

【教員室または連絡先】

物質材料・経営情報1号棟304室(吉田)

【授業目的及び達成目標】

1. 授業目的
電子商取引システムに関する基本的な知識および技術を習得することを目的とする。
2. 達成目標
 - ・B2C、B2Bシステムの動作原理を説明できること。
 - ・簡単なB2C、B2Bシステムを構築できること。

【授業キーワード】

B2C, B2B, Webアプリケーション

【授業内容及び授業方法】

担当教員が毎回テーマにそって必要な説明を行いながら、関連する操作方法を指導する。
学生は各自の端末で、実際にハード・ソフトを操作しながらその方法を修得する。

【授業項目】

1. ホームページの基礎
2. データベースの基礎
3. Webアプリケーションの基礎
4. Webアプリケーションの作成

【教科書】

教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

高橋麻奈「やさしいJava第3版」ソフトバンクパブリッシング

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法
以下の配分で評価、採点を行う。
学習態度20%、提出レポート80%
2. 評価項目
 - ・各授業項目について、実験の目的と内容を十分理解しているか。
 - ・実験結果を踏まえて十分な考察を行っているか。
 - ・読み手の立場に立ったわかりやすいレポートを書くことができるか。

【留意事項】

本実験ではオブジェクト指向に基づいてアプリケーションを構築するため、「オブジェクト指向プログラミング」及び「経営情報システム工学実験I」を履修していることが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

特になし。
特になし。

【担当教員】

全教員

【教員室または連絡先】

各指導教員の連絡先

【授業目的及び達成目標】

この科目は4年2, 3学期に履修する実務訓練(またはこれに替わる課題研究)に対する導入教育となっており、課程主任より指示された教員の指導の下に、経営情報システム工学に関する実験及び考究を行う。実験及び考究を通して対象分野における分析/計画/設計能力を高め、自らの力で問題解決する能力を養うことを目的とする。

本実験内容は、経営情報システム工学課程の以下の5つの学習・教育目標のすべてに関連する。

1. 科学的・合理的な経営システムを創出する能力を身につける。
2. 情報技術を駆使して経営システムを具体化する能力を身につける。
3. 経営システムのデザイン(計画、設計、管理)能力を身につける。
4. 経営情報システムの開発能力を身につける。
5. 経営を取り巻く経済・社会環境をグローバルな視点で把握する能力を身につける。

【授業キーワード】

分析能力、計画能力、設計能力、問題解決能力、発表能力

【授業内容及び授業方法】

指導教員による指導の下に、設定されたテーマについて、調査・分析・計画・設計等に関する実験及び考究を行い、学期末にその成果を発表する。

【授業項目】

指導教員の指示による。

【教科書】

指導教員の指示による。

【参考書】

指導教員の指示による。

【成績の評価方法と評価項目】

実験及び考究に対する努力、成果、発表によって評価する。

【留意事項】

前年度末における単位取得状況により、本年度に卒業が見込まれる学生は本科目を履修することができる。

【担当教員】

全教員

【授業目的及び達成目標】

大学院進学予定者に対し、第4学年2・3学期に実施する。企業その他の受け入れ機関に派遣し、受け入れ機関の業務に従事させる。社会との密接な接触を通し、指導的技術者として必要な能力を研鑽するとともに、実践的な技術を体得する。

本実験内容は、経営情報システム工学課程の以下の5つの学習・教育目標のすべてに関連する。

1. 科学的・合理的な経営システムを創出する能力を身につける。
2. 情報技術を駆使して経営システムを具体化する能力を身につける。
3. 経営システムのデザイン(計画、設計、管理)能力を身につける。
4. 経営情報システムの開発能力を身につける。
5. 経営を取り巻く経済・社会環境をグローバルな視点で把握する能力を身につける。

【授業キーワード】

分析能力、計画能力、設計能力、問題解決能力、発表能力

【授業内容及び授業方法】

派遣先企業の指導員による。

【授業項目】

派遣先企業の指導員による。

【教科書】

別途指導員が指示する。

【参考書】

別途指導員が指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

実務訓練期間中に提出される報告書および実務訓練成果報告会を総合的に判断して合否を決める。

【担当教員】

全教員

【教員室または連絡先】

指導教員の連絡先

【授業目的及び達成目標】

学部卒業を希望する学生に対し、第4学年2・3学期に実施する。卒業後の学生が社会に有用な技術者として活躍できるよう、実践的テーマを与える。特に学生が発案し、これが研究課題として有意義なもの認められるときにはこれを採用してもよい。

本実験内容は、経営情報システム工学課程の以下の5つの学習・教育目標のすべてに関連する。

1. 科学的・合理的な経営システムを創出する能力を身につける。
2. 情報技術を駆使して経営システムを具体化する能力を身につける。
3. 経営システムのデザイン(計画、設計、管理)能力を身につける。
4. 経営情報システムの開発能力を身につける。
5. 経営を取り巻く経済・社会環境をグローバルな視点で把握する能力を身につける。

【授業キーワード】

分析能力、計画能力、設計能力、問題解決能力、発表能力

【授業内容及び授業方法】

指導教員による。

【授業項目】

指導教員による。

【教科書】

別途指導教員が指示する。

【参考書】

別途指導教員が指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

課題研究終了時に提出する課題研究論文と終了後に行う課題研究発表会により総合的に判断する。

【留意事項】

前年度における単位取得状況により、今年度に卒業が見込まれる学生は本科目を履修することができる。社会人入学者及び十分な期間の実務経験を有する学生は「実務訓練」に代えて本科目を履修する。

【担当教員】

山田 耕一

【教員室または連絡先】

総合研究棟4階405室

【授業目的及び達成目標】

情報機器およびコンピュータが一般家庭の中にまで浸透しつつある現在、誰もが使えるヒューマンインタフェース設計の重要性は増す一方である。本講義では、人間と機械のコミュニケーションという視点から、ヒューマンインタフェースのあり方と現在の技術、問題点、そして今後のヒューマンインタフェースが目指す方向について理解することを目標とする。

本講内容は、経営情報システム工学課程の5つの学習・教育目標のうち、次の目標に関連する。

1. 科学的・合理的な経営システムを創出する能力を身につける。
2. 情報技術を駆使して経営システムを具体化する能力を身につける。
3. 経営システムのデザイン(計画、設計、管理)能力を身につける。

【授業キーワード】

ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)、可視性、対応付け、アフォーダンス、フィードバック、メンタルモデル、認知モデル、ユーザモデル、ユーザ意図、マルチモーダルインタフェース、仮想現実、実世界指向インタフェース

【授業内容及び授業方法】

前半は人間の認知特性および人間・機械間のコミュニケーションについて解説し、後半はヒューマンインタフェース技術や研究動向を説明する。

なお、ヒューマンインタフェース技術の多くは客観的な評価が難しく、それぞれの立場によって評価が異なる。そのため授業は一方的な講義だけでなく、受講者の意見や感想を求めながら進めたい。授業中の率直な意見・疑問・感想を歓迎する。

【授業項目】

ヒューマンインタフェースとは (第1講)

第1部. ヒューマンインタフェースとデザイン

- (1) デザインの原則 (第2講)
- (2) ユーザの疑問:何をどうしたらよいか, を解決するには (第3講)
- (3) 利用するための知識とユーザの記憶 (第4講)
- (4) 人は誤りを犯す:ヒューマンエラーへの対策 (第5項)
- (5) デザインの複雑さ (第6講)
- (6) 行為の7段階モデルとユーザ中心のデザイン (第7講)
- (7) 認知モデルとユーザモデル (第8講)

第2部 ヒューマンインタフェース技術

- (1) コンピュータのヒューマンインタフェース (第9講)
 - (2) 自然言語対話と意図推論 (第10講)
 - (3) ユーザ意図の推論と知的インタフェース (第11講)
 - (4) ノンバーバルIFとマルチモーダルIF (第12講)
 - (5) インタフェースエージェントとマルチモーダルコミュニケーション (第13講)
 - (6) バーチャルリアリティとリアルワールド (第14講)
5. まとめと期末レポート (第15講)

【教科書】

なし。学内専用webにより資料を配布する。

【参考書】

D.A.ノーマン著, 誰のためのデザイン?, 新曜社
田村博著, ヒューマンインタフェース, オーム社

【成績の評価方法と評価項目】

学期末に課すレポートにより評価する。なお、授業中の質疑・議論に特に大きな貢献をしたものについては、20%を上限に、レポートの点数に成績を上乗せすることがある。

【留意事項】

将来、設計技術者、システムエンジニア、HI技術者・研究者を目指す者を対象に講義を行う。特に前提とする知識はない。

【担当教員】

浅井 達雄

【教員室または連絡先】

総合研究棟505室

【授業目的及び達成目標】

〔授業目的〕

情報とは何か、マルチメディアとは何かについて理解を深め、人と人とのコミュニケーション、人とコンピュータのインターフェースのあるべき姿を理解する。

〔達成目標〕

現代社会の変化に応じて、経営情報システムにおけるマンマシン・インターフェースが具備すべき設計要件を明確にすることができるようになる。

【授業キーワード】

情報、マルチメディア、マルチモーダル、メディア変換、記号論、ヒューマン・インターフェース、感性情報処理

【授業内容及び授業方法】

・講義は、AV機器を活用して行う。

・講義資料は、学内ホームページ

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/asai/lec/> に掲載するので、各自、必要に応じて印刷して授業にでること。

【授業項目】

第1章 人間と情報

第1節 情報

第2節 情報の諸形態

第3節 情報と知識

第4節 情報・知識の利用

第2章 マルチメディア情報とインタラクション

第1節 インタラクションとマルチメディア・インタフェース

第2節 マルチメディア・インタフェースの役割

第3節 マルチ・モーダル・インタフェース

第4節 社会的インタラクションとマルチメディア・インタフェース

第3章 マルチメディアと感性情報処理

第1節 感性と感性情報処理

第2節 感性情報とマルチメディア

第3節 感性情報の伝達

【教科書】

(教科書は使用しない。)

【参考書】

「マルチメディア情報学の基礎」長尾真ほか、岩波書店

【成績の評価方法と評価項目】

1. 成績評価

・期末試験で評価する。

2. 評価項目にはつぎの項目を含める。

・講義で指摘した主要事項が説明できるか

・講義内容が体系的に知識として整理されて身につけているか

・それをもとに発展的に自ら思考できるか

【留意事項】

1. 講義資料は学内ホームページに掲載するので、必要に応じ、各自、印刷して授業に持参すること

2. ホームページ掲載の資料をもとに、予習、復習を徹底すること

3. 質問はホームページに掲載のメールアドレスでいつでも受け付ける。

4. ホームページには連絡事項も掲載するので1週間に2度は参照すること

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/asai/lec/>

浅井教授のページ

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター108室(内線9823、E-mail:shionoya@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

5兆円産業であるスポーツ産業で展開される情報を駆使したマネージメントの実践と科学的・合理的なシステムの開発について、(1)スポーツ製品開発のプロセスにおける有効な情報の獲得、(2)検出された情報に基づく製品開発、(3)開発された製品の瑕疵と製造物責任を中心に授業を展開することで、合理的な経営システムの開発を担うことのできる情報技術者・研究者の育成の一助とすることを目的とする。この授業目的をそのまま広義の達成目的とし、さらに授業で取り上げる個々の項目の理解を狭義の達成目的に位置付ける。

【授業キーワード】

スポーツ産業、スポーツ製品開発、マン-マシン-インターフェース、製造物責任、合理的システム

【授業内容及び授業方法】

授業目的にも挙げたスポーツ製品開発のプロセスにおいて、(1)スポーツ製品開発のプロセスにおける有効な情報の検出、(2)検出された情報に基づく製品開発、(3)開発された製品の瑕疵と製造物責任から具体的な事例を紹介しながら理解させていく。その際の基礎として、スポーツ製品はヒトが使うものであるためマン-マシン-インターフェースを考慮し、ヒトの特性について理解させ、さらに情報の獲得および製品開発にかかわる手法の理解、開発された製品に対する責任等、バイオメカニクス、人間工学、情報科学、材料・設計工学、法学(法工学)といった幅広い分野について触れる。合せて、スポーツ産業特にスポーツマネージメントに係る小論を展開し、授業後の研究への応用を期待する。なお、授業は受講者数によって、pptファイルによる授業、ゼミ形式による授業、簡単な実験等を含めた実習的授業を使い分ける。

【授業項目】

- 1.産業としてのスポーツ
- 2.スポーツマネージメント(ハードウェア)
- 3.スポーツマネージメント(ソフトウェア)
- 4.基礎としてのヒトの特性(筋系・神経系、呼吸循環系、心理系または情報処理系)
- 5.ヒト系のパフォーマンス向上を目的としたMIS(情報管理システム)
- 6.スポーツにおける情報の獲得と利用(ヒト(マン)系のパフォーマンス向上:スポーツバイオメカニクス)
- 7.スポーツにおける情報の獲得と利用(マシン系のパフォーマンス向上:スポーツ工学)
- 8.スポーツにおける情報獲得のための手法(実習形式:一対比較)
- 9.スポーツ製品開発のプロセス(スキーまたはテニスを一例として)
- 10.スポーツと感性工学
- 11.製造物責任法(PL法)とスポーツ
- 12.スポーツの特性と法的責任
- 13.スポーツにみられる科学技術と倫理
- 14.スポーツ製品開発からスポーツマネージメントへの展開
- 15.まとめ:スポーツマネージメント各論とその将来展望

【教科書】

特に指定しない。受講者数に応じて、ppt等の資料を配布する。

【参考書】

スポーツマネージメントースポーツビジネスの理論と実際ー日本スポーツ産業学会編

【成績の評価方法と評価項目】

5回の小テスト(50点)と最終テスト(50点)。最終テストについては、レポートの場合あり。

【担当教員】

綿引 宣道

【教員室または連絡先】

綿引宣道(物質・材料 経営情報1号棟4階406室)
nwatahiki@kjs.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

経営分野(商学、組織、戦略、コーポレートガバナンス、経営社会学)の根幹を成す科目であるので、その科目を理解するのに必要な基礎知識を身に着けること。

【授業キーワード】

商学、組織、戦略、コーポレートガバナンス、経営社会学

【授業内容及び授業方法】

講義形式とする。
レポートの書き方は、「学生用ページ:授業の内容の資料など(学内限定)」の中にあるので、確認すること。
これにしたがって採点します。

【授業項目】

- 1回 経営管理の意味と大きな歴史的流れ
- 2回 古典的管理(3章)
- 3回 Ford System、Weberの官僚制(3章)
- 4回 人間関係論(3章、15章)
- 5回 意思決定学派
- 6回 Barnardの組織観
- 7回 管理過程学派
- 8回 経営者の役割と管理階層
- 9回 経営組織の基本形態(5章)
- 10回 戦略(1):経営計画の意義、
- 11回 戦略(多角化、競争戦略・差別化戦略)
- 12回 企業集団とコーポレートガバナンス 内部統制(8章)
- 13回 日本的経営(1):三種の神器の経済的裏付け
- 14回 日本的経営(2):諸問題
- 15回 テスト

【教科書】

『経営管理論』奥村 恵一 出版社: 有斐閣(1997/07) ASIN: 4641085889
教科書は各自で購入すること。

【参考書】

参考書ではないが、実践的な視点から授業を行うので、ニュースや新聞は必ずチェックしておくこと。出来れば、日ごろからBSなどで経済番組を見ておく事が望ましい。

【成績の評価方法と評価項目】

テスト75%、レポート25%、授業に即した良い質問・発言で+ α で評価する。

【留意事項】

教養科目「現代社会と経営」などを履修している事が望ましい。
授業内容に関する質問は受けうつけるが、評価に関する交渉は受け付けない。

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/watahiki/>
「綿引宣道 准教授のページ」の「学生用ページ:授業の内容の資料など(学内限定)」

【担当教員】

MARASINGHE CHANDRAJITH ASHUBODA・吉田 富美男

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟307(内線9367, Email: ashu@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

This course aims to provide students both a theoretical and a practical base in fundamentals of software engineering. In the theoretical part, students will discover about the principles and methods of software engineering. In the practical part, students will become familiar with the development of software group projects from a software engineering perspective.

本講義はソフトウェア工学原理を理論的・実践的に行う。

理論的な講義は、ソフトウェア工学の原理および方法論について学習する。

実践的な講義では、ソフトウェア工学的な見地に立ったソフトウェア設計のプロジェクト学習に親しむ。

【授業キーワード】

Software Engineering, Management, UML

【授業内容及び授業方法】

Interactive learning method with individual and group projects to acquire software engineering skills in industrial perspective.

工業的展望におけるソフトウェア工学スキル獲得のための個別またはプロジェクト学習を、対話型学習によって行う。

【授業項目】

- 1.Introduction to Software Engineering (ソフトウェア工学入門)
- 2.Software design issues (ソフトウェアデザインの問題)
- 3.Software Engineering principles (ソフトウェア工学の原理)
- 4.Software architecture (ソフトウェアアーキテクチャ)
- 5.Specification, Testing, Verification (設計仕様, テスト, 照合)
- 6.Software production (ソフトウェアの製造)
- 7.Management of Software Engineering (ソフトウェア工学の経営)
- 8.Maintenance of software and tools (ソフトウェアおよびツールのメンテナンス)
- 9.Unified Modelling Language (UML)(UML)

【教科書】

Fundamentals of Software Engineering, Carlo Ghezzi, Mehdi Jazayeri, Dino Mandrioli
Second Edition, ISBN 0-13-305699-6

Software Engineering: A Practitioner's Approach, Sixth Edition, Roger S. Pressman

【成績の評価方法と評価項目】

Attendance 20%

Individual Project 40%

Group Project 40%

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/ashu/se/se.html>

Software Engineering (SE)

【担当教員】

MARASINGHE CHANDRAJITH ASHUBODA・志田 敬介・高橋 弘毅・鈴木 泉

【教員室または連絡先】

Department of Management and Information Systems Building Room 307, Intercom 9367, Email:
ashu@kjs.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

多変量統計学の基礎を学び、実際のデータを収集し、正しいプロセスで解析できる能力を養う。

【授業キーワード】

統計、多変量解析、多変量分布、行列演算、相関分析、最小二乗推定、最尤推定、重回帰分析、因子分析、主成分分析

【授業内容及び授業方法】

多変量統計学の基礎(相関分析、最小二乗推定、最尤推定、重回帰分析、因子分析、主成分分析)およびコンピュータを用いた実習を行う。

【成績の評価方法と評価項目】

Attendance 20%
Mid-Term Test 40%
Final Report 40%

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/ashu/ste/ste.html>
Statistics for Engineering (STE)

【担当教員】

松井 志菜子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟305室

【授業目的及び達成目標】

現在、日本だけではなく世界の多くの企業が生き残りをかけて経営改革をしている。M&A、異業種・他分野への事業拡大、移行、縮小、分割など様々な企業の再編を行い活性化を図っている。それに伴い商法改正も頻繁である。この授業は経済社会の変化、資金の流れを敏感に反映する商法、会社法を全般に亘り眺める。技術科学の専門知識を有する経営者を目指し、起業家精神を育てることを目標とする。

【授業キーワード】

Corporate Governance、会社設立、企業経営、取締役の責任、企業再編、有価証券法

【授業内容及び授業方法】

授業内容は商法と会社法である。民法の特別法である商法全体(商法総則・商行為、有価証券法(手形小切手法))を概観し、経済社会を動かす企業に関する法である会社法に重点を置く。株式会社の企業再編、企業統治(Corporate Governance)、企業の社会的責任(CSR)にも触れる。授業方法は、講義とゼミ形式(発表)で行う。

【授業項目】

- 1 商法とは何か
- 2 会社法(資本制度・会社設立・株式・機関・株主総会・取締役会・企業再編等)
- 3 商法総則、商行為
- 4 有価証券法(手形法・小切手法)

【教科書】

未定

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

課題研究レポート(30%)、ゼミ発表(30%)、テスト(20%)
授業態度、問題意識、課題への取組姿勢、積極性などを総合評価(20%)

【留意事項】

六法を持参すること。教科書、六法については初めの授業で説明する。

【担当教員】

阿部 俊明・Valerie. McGown(ヴァレリー マクガウン)

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟302号室、404号室

【授業目的及び達成目標】

近年地方の活性化が呼びかけられている。地方では中小企業が中心であり、地方の活性化は中小企業の活性化と緊密に結びついている。このような状況の下で中小企業はどのような特徴があるのか、また、中小企業を経営するためにはどのような事項に留意すべきか等の中小企業経営について知見を深める。これにより、経営を取り巻く経済・社会環境をグローバルな視点で把握する能力を身につけることができる。

【授業キーワード】

中小企業経営、地域、産業振興、開業、資金調達

【授業内容及び授業方法】

原則講義形式とするが、必要に応じてディスカッション。

【授業項目】

1. 中小企業とは
2. 開業・創業
3. 中小企業と経営
4. 中小企業のマーケティング
5. 資金調達
6. 中小企業金融
7. 会社とは
8. 中小企業と海外のかかわり
9. 中小企業の海外進出
10. 中小企業と製造業
11. 中小企業と労働市場
12. 中小企業と下請け
13. 中小企業と地域経済
14. 中小企業と地域社会
15. 試験

【教科書】

特に定めがないが必要に応じて指定。

【参考書】

必要に応じてその都度紹介。

【成績の評価方法と評価項目】

中間レポート35%。期末テスト65%。

【担当教員】

志田 敬介

【教員室または連絡先】

総合研究棟 504室 (E-mail:shida@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

製造業の主活動である生産と物流プロセスをとりあげる。生産と物流の役割について体験的に学習するために、生産計画を主体としたゲームを行う。それを基に、生産計画、生産管理、品質管理、物流管理について事例を踏まえながら理論的に解説を行う。最終的には、実際の製造業における問題は非常に多様化していることと理解し、それらの問題に対する基本的な考え方の習得を達成目標とする。

【授業キーワード】

生産システム、生産管理、生産計画、物流システム、物流管理

【授業内容及び授業方法】

授業内容は、下記の授業項目に示したものと、それらに関連するものとする。原則として次の要領で授業を行う。

- (1) 講義と演習を主体とする
- (2) 講義前に簡単なクイズを実施する。

【授業項目】

- 1.ものづくりの歴史(1回)
- 2.生産計画業務の体験演習(3回)
- 3.生産システム(6回)
生産計画、生産管理、品質管理
- 4.物流システム(4回)
物流管理、物流の問題点、物流管理システム

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

金沢孝・松本俊之著「現場改善志向の生産情報システム」(日刊工業新聞社)

【成績の評価方法と評価項目】

学期末の筆記試験によって評価する。

【担当教員】

Valerie. McGown (ヴァレリー マクガウン)

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟404室

【授業目的及び達成目標】

ますます、グローバル化していく中で、日本と外国、日本と国際社会との関係、役割にどのような問題があり、それにたいして国際コミュニケーションはどのような意味を持って、どのようなものであるかを考察する。その時、アジア地域の中でもう一つの先進国であるオーストラリアと対比しながら、日本の立場と役割を考える。

【授業キーワード】

国際コミュニケーション、日本と国際社会、日本、オーストラリア、アジア

【授業内容及び授業方法】

ディスカッションの機会を考量し、講義を行う。学生は、適宜指定する参考書、参考資料により、授業項目に関する自習を重視する。

【授業項目】

日本の経済と国際関係、日本企業の海外進出とその問題、日本とアジア、オーストラリアとアジア、日本とオーストラリアの関係とその変化、多文化社会とその対応策、国際労働異動、言葉の問題(通訳、翻訳)、日本の国際社会への参加とその問題点。

【教科書】

なし

【参考書】

参考書・参考資料:適宜指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

クラスプロジェクト	50%
末期レポート	50%

【留意事項】

末期レポートなどは英語でも日本語でも提出可能。

【担当教員】

MARASINGHE CHANDRAJITH ASHUBODA・吉田 富美男・畦原 宗之・中平 勝子・高橋 弘毅

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟307(内線9367、Email:ashu@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

オブジェクト指向に関する諸概念を理解し、オブジェクト指向に基づいたプログラミング手法を習得することを目的とする。

達成目標:

オブジェクト指向の諸概念を説明できること。

オブジェクト指向に基づいてプログラムを作成できること。

オブジェクト指向に基づいて作成されたプログラムを理解できること。

UMLにおける基本的な図を作成、及び理解できること。

基本的なデザインパターンについてその特徴を理解し応用できること。

【授業キーワード】

オブジェクト指向、プログラミング、UML、Java、デザインパターン

【授業内容及び授業方法】

授業内容:

本講義ではオブジェクト指向プログラミング言語としてJavaを中心に学習を進める。はじめにプログラミングに必要な基礎知識を学習する。次に、これらの基礎知識に基づいて、オブジェクト指向に関する諸概念を学ぶとともに、具体的なオブジェクト指向プログラミングの手法を習得する。

授業方法:

講義はPowerPointを使用して行うが、オブジェクト指向プログラミングに関する諸概念をより深く理解するために、適宜、グループ学習や端末によるプログラミングを行う。

【授業項目】

- 1.プログラミングの基礎知識
- 2.オブジェクト指向
- 3.クラス
- 4.カプセル化
- 5.継承
- 6.多態性
- 7.インタフェース
- 8.デザインパターン

【教科書】

教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

高橋麻奈「やさしいJava第3版」ソフトバンクパブリッシング

【成績の評価方法と評価項目】

授業態度20%、中間試験40%、期末試験40%

【留意事項】

特になし。

【参照ホームページアドレス】

なし。

なし。

【担当教員】

MARASINGHE CHANDRAJITH ASHUBODA・畦原 宗之・中平 勝子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟307(内線9367, Email: ashu@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

This course aims to provide students both a theoretical and a practical base in fundamentals of database systems. In the theoretical part, students will discover about the fundamentals of database systems. In the practical part, students will become familiar with the development of database systems.

本講義はデータベースシステムの原理に基づく理論・実践を行う。

理論部はデータベースシステムの原理について講義する。実践部ではデータベースシステム開発を行う。

【授業キーワード】

データベース管理システム、データベース言語、SQL

【授業内容及び授業方法】

担当教員が毎回テーマにそって、必要な説明を行いながら、関連する操作方法を指導する。学生は各自の端末で、実際にハード・ソフトを操作しながらその方法を修得する。

【授業項目】

- 1.Fundamentals of Database Systems (データベースシステムの基礎)
- 2.Data and File Storage (データとファイルストレージ)
- 3.Query Processing and Indexing (クエリ処理とインデックス)
- 4.SQL (SQL)
- 5.Data Warehousing (データウェアハウジング)
- 6.Multimedia Databases (マルチメディアデータベース)
- 7.Object-oriented and Extended Relational Database Systems (オブジェクト起源と拡張リレーショナルデータベースシステム)

【教科書】

Fundamentals of Database Systems (5th Edition), Ramez Elmasri, Shamkant B. Navathe

【成績の評価方法と評価項目】

Attendance 20%
Individual Project 40%
Group Project 40%

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/ashu/ids/ids.html>
Introduction to Database Systems (IDS)

【担当教員】

山田 耕一

【教員室または連絡先】

総合研究棟4階棟405室

【授業目的及び達成目標】

情報が価値や利益を生み出す主役ともいえる情報社会においては、情報の伝達・蓄積・処理などのIT/ICT技術に加えて、情報を高度に質的処理する知的情報処理の重要性が高まる。本講義では、知的情報処理を実現するための理論と手法を提供する人工知能の基礎について学習する。

本講義内容は、経営情報システム工学課程の5つの学習・教育目標のうち、次の目標に関連する。

1. 科学的・合理的な経営システムを創出する能力を身につける。
2. 情報技術を駆使して経営システムを具体化する能力を身につける。
3. 経営システムのデザイン(計画、設計、管理)能力を身につける。

【授業キーワード】

問題解決、探索、命題論理、述語論理、論理的推論、非論理的推論、因果推論、診断、知識ベースシステム、エキスパートシステム

【授業内容及び授業方法】

人工知能という学問の性格を理解するため、まず人工知能研究の歴史や研究が目指すものについて説明し、その後、人工知能における問題解決の考え方、探索、論理、推論について学習し、最後に応用人工知能の一つである知識工学について学ぶ。本講義は人工知能の入門編であるが、具体的な応用技術を紹介することよりも、様々な知能化技術を将来学ぶ上で役に立つ基礎に重点を置く。理解を深めるため、講義中に簡単な演習問題を課す。

【授業項目】

1. 人工知能とは(第1講)
知能についての考え方、研究の対象、人工科学としての特徴、研究の歴史、などについて概説する。
2. 問題解決(第2講)
人工知能における問題解決の考え方、モデル化について、その基礎を説明する。
3. 探索(第3講～5講)
盲目的探索、発見的探索の各種方法について説明し、計算量に関する理論的な比較を行う。また、ゲーム木についても説明する。
4. 論理と推論(第6講)
人工知能において推論は不可欠であるが、そのための強力な手法の一つが論理である。ここでは様々な論理について概説した後、最も基本的な命題論理とそれに基づく推論について述べる。
5. 述語論理(第7、8講)
人工知能で最もよく使われる論理が述語論理である。述語論理とそれを用いた推論について説明する。
6. レポート課題(第9講)
7. 非論理的推論(第10講)
「論理に基づく推論」(演繹推論)は常に正しい結論を導くが、逆に言えば当たり前の結論しか導かない。ここでは、知識を広げる拡張的推論ともいわれる帰納推論とアブダクションについて説明し、現実世界でよく用いられる「説明に基づく推論」を解説する。
8. 因果関係と診断(第11講)
因果は世界を理解するための基本的な概念であり、因果関係を用いる推論は説明に基づく推論そのものである。ここでは、因果関係を用いる診断の基本的な考え方について説明する。
9. 知識工学(第12項～14講)
応用人工知能である知識工学と知識ベースシステムについて述べ、知識ベースシステムでよく用いられる知識表現方法について説明する。
10. レポート課題(第15講)

【教科書】

なし。webにより資料を配布する。

【参考書】

荒屋真二:人工知能概論, 共立出版
西田豊明:人工知能の基礎, 丸善
上野晴樹:知識工学入門, オーム社

【成績の評価方法と評価項目】

学期途中および学期末に課する2回のレポートによって評価する。

【留意事項】

大学院における「知能情報科学特論」、「機械学習論」を受講する学生は、本講義を受講しておくことが望ましい。

Decision Making Systems

【担当教員】

大里 有生

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟409室

【授業目的及び達成目標】

意思決定(Decision Making)は人間生活のあらゆる場面で行われている知的行動である。工学的なシステムの開発、設計、製造、運用も意思決定のプロセスであり、不確実な状況下において最適な経営戦略を創出する合理的なプロセスも意思決定である。意思決定は、有効な代替案を探索し決定するためのシステム分析、環境の不確実性を考慮した代替案実施結果の予測、その予測結果の評価と評価結果の順序づけを行うための選好、そして、希求水準を超える満足解を得るための合理的選択基準・行動規範などから構成される。本講義では、こうした意思決定の意義を理解し、意思決定のための方法論及び各種技法について学ぶ。本科目は、学習・教育目標の(1),(2),(3),(4)に寄与する。

【授業キーワード】

意思決定、合理性、決定環境の不確実性、戦略行動基準、効用、ゲーム理論、経営戦略、意思決定支援システム

【授業内容及び授業方法】

本講義では、対象システムに関する代替案が所与の(すでに与えられている)ものとしてある受動的な選択・決定だけでなく、代替案の探索・創出を意識的に行う能動的な意思決定をも対象とし、各種の意思決定問題とその数理的記述を紹介し、意思決定を取り巻く環境及び情報の確実性・リスク性・不確実性を考慮した満足化意思決定の方法について講述する。

【授業項目】

1. 序論
2. 意思決定と経営科学
3. 意思決定問題とその記述
4. 意思決定の基準
5. 意思決定における情報の利用と価値
6. ベイズ戦略と意思決定
7. 効用と意思決定
8. 数理計画法による意思決定
9. ゲーム理論による意思決定
10. 多目的評価基準による意思決定
11. 意思決定と情報構造
12. 経営戦略問題と戦略行動基準
13. 階層化意思決定
14. 意思決定支援システム
15. 学期末試験

【教科書】

特には指定せず。適宜、講義資料を配布する。

【参考書】

「意思決定の基礎」、松原 望著、朝倉書店。
「意思決定論」、市川 惇信著、共立出版。
「経営システム」、高原 康彦・中野 文平編集、日刊工業新聞。

【成績の評価方法と評価項目】

以下に示す二つの個別評価を総合して成績を評価する。

1. 適宜提示する課題に対する中間レポート(3回程度)
 2. 学期末に行う期末試験(1回)
- 総合評価における上記個別科目の割合は、中間テスト30%、期末試験70%とする。

【参照ホームページアドレス】

<http://alice.nagaokaut.ac.jp/~o-lab/>
Systems Engineering Lab,

【担当教員】

志田 敬介

【教員室または連絡先】

総合研究棟 504室 (E-mail:shida@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

現在の企業経営において、情報システムは迅速な意思決定をくだす上で、不可欠な要素となっている。そこで、物品購買をモデルとゲームを通じて、業務の理解、それを基にした情報システムの設計・構築、そして分析を体験する演習を行う。さらに、その演習もとに、実際の企業における事例を踏まえて、意思決定と情報化についての基礎的な知識の習得を達成目標とする。

【授業キーワード】

情報システム、意思決定、システム設計、システム分析、経営データベース

【授業内容及び授業方法】

授業内容は、下記の授業項目に示したものと、それらに関連するものとする。原則として次の要領で授業を行う。

- (1) 講義と演習を主体とする
- (2) 講義前に簡単なクイズを実施する

【授業項目】

- 1.経営情報システムの設計(1回)
- 2.情報システムの設計と分析演習(3回)
- 3.経営における意思決定と情報化(8回)
経済性、設備投資、キャッシュフロー、需要予測、MRP、TOC、CIM
- 4.経営情報システムにおける問題点(2回)
技術的側面、人間的側面

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

宮川公男著「経営情報システム」(中央経済社)

【成績の評価方法と評価項目】

学期末の筆記試験によって評価する。

【担当教員】

李 志東

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟306室

【授業目的及び達成目標】

いま、我々は身近なごみ問題、自動車排ガス問題から生物種の減少や地球温暖化問題まで、様々な環境問題に遭遇している。では、なぜ環境問題が発生するのか、どのような対策が必要なのか。本講義の目的は、上記のような設問に対する解答について経済学の見地から考察することである。環境問題に関する理解を深め、問題解決の基礎能力を身に付けることを目標とする。

【授業キーワード】

環境要素、環境問題、環境対策、環境保護システム、環境情報、汚染者負担と受益者負担、エネルギー需給、地球温暖化、先進国責任と途上国責任、持続可能な発展

【授業内容及び授業方法】

概要に関する講義と各論に関する輪講をあわせる形で、授業を進める。

【授業項目】

- 1 環境経済学概論(講義3回)
- 2 教科書に基づく環境経済学各論(輪講11回)
- 3 経済・エネルギー・環境に関する計量経済的分析(講義1回)

【教科書】

「現代経済学入門:環境経済学」、植田 和弘著、岩波書店

【参考書】

「中国の環境保護システム」、李 志東著、東洋経済新報社

【成績の評価方法と評価項目】

輪講(40%)及び期末レポート(60%)を総合して成績を評価する。

【留意事項】

受講者は「ミクロ経済分析」、「マクロ経済分析」、「計量経済学」と合わせて履修することが望ましい。

【担当教員】

浅井 達雄

【教員室または連絡先】

総合研究棟505室

【授業目的及び達成目標】

〔授業目的〕

現代社会の抱える課題を解決するという観点からの産業デザインに対する社会的期待を理解した上で、重要性を増しているユニバーサル・デザインの基本的考え方と具体的な設計指針とを学び、現代における設計環境についてその理論的背景を修得する。

〔達成目標〕

ユニバーサル・デザインの観点から、製品の形状設計、機能設計等について論じること、および主として製造業における商品企画、開発・設計等についてPLM(Product Lifecycle Management)の観点から論じることができるようになる。

【授業キーワード】

ユニバーサル・デザイン、PLM、コンピュータ・グラフィクス、CAD、CAM、CAE、NCプログラミング、ロボット・プログラミング

【授業内容及び授業方法】

- ・講義は、AV機器を活用して行う。
- ・講義資料は、学内ホームページ
<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/asai/lec/> に掲載する。

【授業項目】

- 第1編 デザイン
 - 第1章 デザインの概念
 - 第2章 産業デザイン概論
- 第2編 ユニバーサル・デザイン
 - 第1章 概説
 - 第2章 家電製品のユニバーサル・デザイン
 - 第3章 OA・情報機器のユニバーサル・デザイン
 - 第4章 住環境・住宅設備のユニバーサル・デザイン
 - 第5章 企業における取組み事例
- 第3編 CAD/CAM/CAE
 - 第1章 概説
 - 第2章 ハードウェア
 - 第3章 ソフトウェア
 - 第4章 工程設計
 - 第5章 NC技術とロボット技術

【教科書】

(教科書は使用しない。)

【参考書】

「CAD/CAM/CAE入門」安田仁彦、オーム社

【成績の評価方法と評価項目】

1. 成績評価
 - ・期末試験で評価する。
2. 評価項目にはつぎの項目を含める。
 - ・講義で指摘した主要事項が説明できるか
 - ・講義内容が体系的に知識として整理されて身についているか
 - ・それをもとに発展的に自ら思考できるか

【留意事項】

1. 講義資料は学内ホームページに掲載するので、必要に応じ、各自、印刷して授業に持参すること
2. ホームページ掲載の資料をもとに、予習、復習を徹底すること
3. 質問はホームページに掲載のメールアドレスでいつでも受け付ける。
4. ホームページには連絡事項も掲載するので1週間に2度は参照すること

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/asai/lec/>
浅井教授のページ

【担当教員】

松浦 康次

【教員室または連絡先】

非常勤講師(下記ホームページアドレスを参照)

【授業目的及び達成目標】

著作権の対象となる著作物は私たちの身の回りに多く存在することから、教育・研究の場や職場など至る所で著作権制度に対する理解が必要となっている。また、近年の情報技術の発達により、著作権法は情報流通に係わるルールとして益々重要な役割を担うようになってきている。

本講義では、著作権制度の全体的な仕組みや特徴について理解することを目標とする。また、著作権制度を支援する団体や著作物等の利用を促進する団体等の著作権を巡る実社会の整備体制について把握することを目標とする。

【授業キーワード】

著作権、著作隣接権、インターネット、知的財産権

【授業内容及び授業方法】

講義形式であるが、活発な授業とするために学生の積極的な参加(意見・質問)を求める。

随時、他の知的財産法である特許法や意匠法等の規定ぶりと比較することにより、著作権の特徴を明らかにしたい。必要に応じて、判例等の具体例を紹介したい。

【授業項目】

- (1) 知的財産権制度と著作権制度の概要
- (2) 著作権制度の発展の歴史
- (3) 著作権に関する条約、国際的動向
- (4) 著作物、著作者及び著作権の内容について
- (5) 著作隣接権制度の仕組み
- (6) インターネットの発展と著作権制度の課題
- (7) 情報の円滑な利用システムと著作権の集中管理

【教科書】

著作権テキスト(文化庁HPよりダウンロード可)

【参考書】

明解になる著作権201答 吉田大輔 出版ニュース社 2001
実務者のための著作権ハンドブック 社団法人 著作権情報センター
著作権判例百選 有斐閣 2001

【成績の評価方法と評価項目】

試験による。

【留意事項】

授業に当たっては、著作権法や特許法が掲載された条文集を持参すること。

【参照ホームページアドレス】

<http://m-patent.com>

【担当教員】

村上 直久

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟309室

【授業目的及び達成目標】

貿易に関する基礎的な知識を学んだ上で、世界貿易機関(WTO)の下における現在の世界の貿易システムと現状について考察する。

【授業キーワード】

比較優位、為替レート、IMF体制、自由貿易、WTO

【授業内容及び授業方法】

講義を主体とするが、学生による発表、討論も交える。時事トピックにも触れる。

【授業項目】

- 1 貿易とは何かー比較優位論
- 2 貿易と経済・社会
- 3 貿易と国際収支
- 4 為替レート
- 5 貿易をめぐる国際的枠組み(1)ーIMF
- 6 貿易をめぐる国際的枠組み(2)ーガット・WTOの誕生
- 7 長期戦となったウルグアイ・ラウンド
- 8 ドーハ・ラウンドの現状ー農産物貿易交渉を中心に
- 9 BRICS
- 10 FTA(自由貿易協定)ネットワーク
- 11 WTOに対する賛否両論
- 12 日本の貿易の現状と将来

【教科書】

小峰隆夫『貿易の知識』(日経文庫)

村上直久『WTO-世界貿易のゆくえと日本の選択』平凡社新書

【成績の評価方法と評価項目】

期末テスト(60%)、授業内発表またはレポート(40%)

【担当教員】

Valerie. McGown(ヴァレリー マクガウン)

【教員室または連絡先】

経営情報系;404号室

【授業目的及び達成目標】

The aims of the course are twofold 1) to give students an understanding of the theory of organizations, the complex relationships between organization, technology and management system and 2) to examine the features of Japanese management.

コースの目的は大きく二つに分けられる:1)組織の理論、それから組織、技術、経営システムの相互関係の理解:2)日本経営の特徴の検討

【授業キーワード】

組織、組織論、経営システム、日本の経営

【授業内容及び授業方法】

The course will cover the following topics:

- 1.組織と組織論 (Organizations and organization theory)
- 2.組織の官僚制理論 (Organizations and bureaucracy)
- 3.組織の構造と機能 (Structure and function of organizations)
- 4.組織と技術 (Technology and organization)
- 5.日本生産技術 (Japanese production technology)
- 6.大量生産、リーン生産とトヨタ生産システム (Mass production, Lean production and TPS)
- 7.レビュー&ディスカッション、レポートの準備 (Review, preparation of reports)
- 8.組織と人間:社会システムとしての組織 (People and organizations; organizations as social systems)
- 9.日本的経営(日本的雇用システム)(Japanese management system (Japanese employment system))
- 10.日本的経営と成果主義 (Japanese management and the principle of merit)
- 11.組織と意思決定 (Decision-making in organizations)
- 12.組織と情報、情報社会 (Organization and Information in the Information Society)
- 13.レポートの第一提出兼発表会 (Submission and presentation of preliminary report)
- 14.組織と環境 (Organization and environment)
- 15.組織変化とイノベーション・革新 (Organizational change and innovation)

【教科書】

(To be advised)

関連資料も配布される。Copies of a range of reference materials will be made available to students.

【成績の評価方法と評価項目】

課題を調査・研究して、およそ20枚のレポートにまとめてもらう。

レポート:100%(レポートは日本語で書いても英語で書いても結構です。)

Students will be required to research and write one long paper of about 20 pages.

The paper will constitute 100% of the mark.

The paper may be written in Japanese or English.

Papers are to be submitted in Week 12. Where papers are not of a satisfactory standard, students will have the opportunity to rewrite and resubmit their papers.

Students will be expected to demonstrate an ability:以下の能力を評価基準になる;

- to search for and select information relevant to the chosen topic or problem: 関連する情報を探し出し、選択する
- to understand and explain concepts: 概念を理解し、説明する
- to read and interpret data: データ(表、グラフなど)を正しく読んで、解釈・解析する
- to distinguish between assertion and a well-supported argument based on logical reasoning and/or factual data: 断言・主張・意見としっかりした論拠を区別する
- to critically assess differences of opinion relating to their chosen topic: 違った意見や主張を批判して評価する
- to arrange information and data in a logical order - to form a logical argument: 論理的で、データに基づいた論述を展開する

【留意事項】

Prerequisites

It is recommended that students complete one or more of the management subjects available during first, second and third year.

【担当教員】

福村 好美

【教員室または連絡先】

eラーニング研究実践センター(語学センター棟210)

【授業目的及び達成目標】

1. 授業目的

情報システムの構築・運用・管理に必要な知識・技術の修得を目的として、情報システムの構成法と、事例に関するケーススタディ、要求条件を情報処理システムにおいて実現するためのプロジェクトマネジメント手法、および日常的なシステム運用を適確に実施するための方法などについて学習する。

2. 達成目標

基本的な情報システムの構築能力と管理能力を身につける。

【授業キーワード】

プロジェクトマネジメント、ソフトウェア開発、資源管理、セキュリティ管理、障害管理

【授業内容及び授業方法】

最近の事例などを用いたPowerPointによる解説と、演習・議論を行う。

【授業項目】

1. 情報システム構成法概要
2. プロジェクトマネジメント
3. ソフトウェア開発手法
4. 情報システムの管理
5. 情報センター・ネットワークの運用・保守
6. 情報セキュリティ管理
7. 構築事例研究

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

講義の中で資料を提示する。

【成績の評価方法と評価項目】

1. 評価方法

期末試験、レポート、受講状況により評価する。

2. 評価項目

情報システムの構築法・管理法について、基本的な知識・技術を理解しているか。

【留意事項】

質問は授業の中、あるいはメールにて受け付ける。メールアドレスは授業の中で提示する。

【担当教員】

中村 和男

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟405室(E-mail : nakamura@kjs.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

人類の諸活動が巨大化し、社会の急速な情報ネットワーク化と相俟って、その経済、社会の健全な発展とともに、地球環境問題をはじめ様々なシステムにおけるリスク問題が急務の課題となっている。これらに対して適切な対応を進めてゆくためには、生活や産業、社会システムなどにおける諸活動を、人間を含むシステムの挙動としてとらえ、人間の心理、行動、社会などに重点をおいたシステム工学的アプローチが不可欠となる。ここでは、そうした人間システムへのシステム工学アプローチの考え方および基礎的手法の修得を目標とする。

【授業キーワード】

人間システム, システム工学, システム構造分析, データの多次元分析, モデル化, 意思決定, 技術評価

【授業内容及び授業方法】

わかりやすい具体例を通してながら、人間を部分として含むことを前提としたシステム工学的視点と代表的な数理的手法の考え方を示して行く。授業は、プリントを配布しながら解説してゆくが、適宜、PC教材の併用などにより理解を深められるように進めて行く。

【授業項目】

1. 人間システムのシステム工学(1回)
個体と集団, 人間・製品・環境系等
2. システムの構造分析(2回)
分類, 因果構造, 意味構造等
3. 複雑な様態の多次元分析(2回)
多変量解析, 質的データ分析等
4. 動的モデル(2回)
微分方程式系, 種の生態系等
5. 確率論的モデル(2回)
マルコフ連鎖, 再び種の生態系, 空間分布パターン等
6. 意思決定(2回)
選好・効用, ゲームの理論, 社会的選択等
7. 技術評価(2回)
安全性評価, 多属性評価, LCA等
8. 新しいトピックス(1回)

【教科書】

なし。ただし、プリントを配布する。

【参考書】

J.G.ケメニイ・J.L.スネル「社会科学における数学的モデル」(培風館)
石谷久・石川真澄「社会システム工学」(朝倉書店)
朝野熙彦「入門多変量解析の実際」(講談社サイエンティフィック)
松原望「ゲームとしての社会戦略」(丸善ライブラリー)

【成績の評価方法と評価項目】

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. レポート(フィールド調査, 演習を含む) | 40% |
| 2. 学期末筆記試験(配布資料の持込可) | 50% |
| 3. 学習態度(受講状況や質疑の態度) | 10% |

【留意事項】

教養科目/発展科目「システム工学概論」を履修していることが望ましい。

【担当教員】

五島 洋行

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟402室

【授業目的及び達成目標】

マーケティング戦略とは、商品の販売やサービスの提供により、企業が生み出す利潤を最大化するために行うべき具体的活動を作り上げていくための基本方針である。またそれは、長期的かつ持続的なものであることが求められる。本講義では、市場分析、ポジショニング、価格政策等の基本概念を理解し、直感でなく合理性・客観性を持った経営判断能力を身につけることを目標とする。

【授業キーワード】

マーケティング・マネジメント、SWOT、製品ミックス、ブランド戦略、価格戦略、プロモーション

【授業内容及び授業方法】

授業内容は、下記の授業項目に示したものと、それらに関連するものとする。授業方法は、原則として次の要領で行う。

- (1) 講義形式を主体とするが、必要に応じて、ディスカッション形式をとることがある。
- (2) 授業内容に対する理解を深めるために、小テストや小レポートを課す。
- (3) 小テスト・小レポートは、事前に提示したテーマに関する予習を求める場合と、講義後に理解度を見る場合とがある。

【授業項目】

1. マーケティング・マネジメントの理解
2. マーケティング機会の分析
3. マーケティング戦略の立案
4. 製品ミックスとプロダクト・ポートフォリオ
5. ネーミングとブランド戦略
6. 価格政策とプロモーション戦略

【教科書】

使用しない

【参考書】

必要に応じ、適宜紹介する

【成績の評価方法と評価項目】

おおむね次のような割合で評価を行う。
小テストを含む平常点(30%)、中間試験(35%)、期末試験(35%)

【留意事項】

特になし

【担当教員】

李志東

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟306室

【授業目的及び達成目標】

応用経済分析に最も広く利用される計量経済的分析手法の基本について学習することを目的とする。統計データの収集と解析、モデルの構築とシミュレーション分析など簡単な実証分析に必要な実践的基礎能力を身に付けることを目標とする。

【授業キーワード】

統計データ、変数、統計推定と仮説検定、最小二乗法、単一方程式モデルと連立方程式モデル、シミュレーション分析

【授業内容及び授業方法】

計量経済分析ソフト「エコノメイト」を使い、計量経済モデルの実例を取り上げながら、講義を進める。随時演習問題を課す。

【授業項目】

1. 計量経済学とは(1回)
2. 単一方程式による分析(3回)
3. 連立方程式モデルによる分析(3回)
4. 演習その1:理論モデルの構築(1回)
5. 演習その2:データ収集とモデル推定(3回)
6. 演習その3:シミュレーション分析(2回)

【教科書】

「パソコンによる経済予測入門第2版」室田泰弘・伊藤浩吉・槌屋治紀、東洋経済新報社。

【参考書】

追って指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

質疑応答や演習レポートなどによる平常点(40%)および期末試験(60%)を総合して成績を評価する。

【留意事項】

経済学(マクロとミクロ)、統計学に関する科目の履修もしくはそれと同等の知識を有することが望ましい。

【担当教員】

三宅 仁・原 利昭

【教員室または連絡先】

体育・保健センター107室(三宅／内線9822 E-mail:miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp)
非常勤講師(原)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

福祉工学と医療情報学について全般的な知識を教授する。このうち、特に近年重要度が増している機械工学的アプローチ(バイオエンジニアリング)や情報技術にも重点を置く。

達成目標:

技術が社会および環境に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を認識する能力を獲得するため、福祉工学や医療情報学についての基礎的知識を獲得するとともに応用的展開の展望も得る。

【授業キーワード】

医療、福祉、バイオエンジニアリング、生体工学、身体障害者、高齢社会、生活者、UD、医療情報、電子カルテ、バイオインフォマティクス

【授業内容及び授業方法】

授業内容:福祉工学総論(目的、現状、制度)、福祉工学各論(医学・生理学、方法論、身障者対策、高齢者対策など)、医療情報学概論、医療情報学各論(医療情報システム、電子カルテなど)

授業方法:講義を中心。

【授業項目】

Introduction

I. 総論

1. 福祉工学の目的
2. 福祉工学の現状と将来
3. 福祉の体制(制度、法律、規制、基準、国際比較、他)
4. 医学・生理学的基礎
5. 工学的基礎技術・応用技術

II. 各論

1. 感覚器—感覚補綴
2. リハビリテーション、運動機能補助、生活補助
3. 身体障害者対策
4. 高齢者対策
5. バリアフリーとユニバーサルデザイン など

III. 医療情報学

1. 医療情報学概論
2. 医療情報システム、バイオインフォマティクス
3. 電子カルテ
4. 病院情報システム、保健情報システム

試験

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績の評価方法と評価項目】

評価方法:レポート(40%) + 最終試験(60%) レポートは別途指示する。

評価項目:基礎的知識の獲得(70%) + 応用的理解(30%)

【留意事項】

大学教養程度の生物学の基礎知識(例えば教養科目/発展科目の「ライフサイエンス」)を前提とする。

【参照ホームページアドレス】

<http://www.melabq.nagaokaut.ac.jp/LEC>
体育・保健センター/講義用HP

【担当教員】

三上 喜貴・三宅 仁・福村 好美・小林 龍生

【教員室または連絡先】

三上:総合研究棟601(内線9355) mikami@kjs.nagaokaut.ac.jp

三宅:体育・保健センター107室(内線9822) miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp

福村:電気2号棟175室

小林:

【授業目的及び達成目標】**【授業目的】**

情報と職業についての関わり、情報に関する職業人としての在り方等を理解することを目標として、情報化社会の進展と就業、産業、企業構造の変化についての認識を広げるとともに、職業倫理を含む職業観と勤労観などについて学習する。

【達成目標】

1. 情報技術あるいは情報システムに関わる職業の広がりについて理解を深める。
2. 情報技術の社会に及ぼす影響・効果を理解するとともに、情報技術者として社会に対する責任を自覚する。
3. 情報化社会における環境変化あるいはリスクに対して、対処方法を自ら考えるための基礎知識を習得する。
4. 自己実現に向けたキャリアカウンセリングの概要を習得する。

【授業キーワード】

情報産業、グローバル化、スキル、資格、継続的能力開発、技術者倫理、リスクマネジメント、自己実現、キャリアカウンセリング等

【授業内容及び授業方法】

授業内容は以下の3つの領域からなる。

1. 情報関係の職業の実際――情報技術の進展に伴い、就業構造、産業構造、企業構造が大きく変化しつつあるなかで、情報技術者の活動領域の広がりについて(福村)
2. 専門職業人に求められる能力と倫理観――情報の受容、処理、発信能力、グローバルな視野、コミュニケーション能力、法令知識と倫理観(三上・小林)
3. 職業指導とキャリアカウンセリング――適性に基づいた職業選択指導、キャリアカウンセリングの基礎(三宅)

【授業項目】

1. 情報関係の職業の実際(福村)
情報化社会における情報システムの役割
情報化に伴うビジネス・行政・教育の変化
情報化に伴う労働環境の変化
情報化社会におけるリスクとマネジメント
2. 専門的職業人に求められる能力と倫理観(三上・小林)
情報技術者に求められる情報受容能力
情報技術者に求められる情報処理能力
情報技術者に求められる情報発信能力
情報技術者に求められるglobalな視野とコミュニケーション能力
情報技術者に求められる法令知識(個人情報保護、著作権、商標、特許など)
情報技術者に求められる職業倫理
3. 職業指導とキャリアカウンセリング(三宅)
自己を知る(自己実現)
適性を知る(性格と適性)
現代の若者とマルチメディア
適性に基づいた職業選択指導
キャリアカウンセリングの基礎(カウンセリング概論、傾聴の基本)

【教科書】

資料を配布する。

【参考書】

特になし(講義時に指示する)

【成績の評価方法と評価項目】

各講師より課題レポートの提出を求める。その内容を達成目標に照らして評価する。

【留意事項】

講義は夏季の集中講義として実施される。1学期のはじめに講義日程を掲示するので、教務関係の掲示に注意すること。

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/mikami/>
Mikami's virtual class Website

【担当教員】

福村 好美

【教員室または連絡先】

eラーニング研究実践センター(語学センター棟210)

【授業目的及び達成目標】

1. 授業目的

情報社会におけるコンピュータおよびインターネットの適切な利用について、社会的規範、礼儀、法令、技術などの面から基本的な考え方を理解する。

【授業キーワード】

コンピュータ 情報倫理、インターネット、個人情報、知的財産権、セキュリティ、マナー

【授業内容及び授業方法】

最近の具体的事例などを用いて、PowerPointによる解説を行う。

【授業項目】

- ・情報社会の特質と課題
- ・情報システムの生活での利用とリスク
- ・情報システムのビジネスへの応用と問題点
- ・情報システムの教育への適用と課題
- ・情報社会における知的財産権
- ・情報社会における個人情報
- ・情報社会におけるセキュリティ
- ・事例研究

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で提示する。

【成績の評価方法と評価項目】

試験、レポートおよび受講状況により評価する。

【担当教員】

渡辺 研司

【教員室または連絡先】

渡辺 研司 物質・材料 経営情報1号棟303室

【授業目的及び達成目標】

企業経営を取り巻くコンティジェンシーの要素を認識し、そのマネジメント手法の理解と、実際の経営課題解決への適用の方法を考察することで、今後、ますます重要性を増すコンティジェンシー・マネジメントの枠組みを習得する。

【授業キーワード】

リスクマネジメント、事業継続マネジメント(BCM)、脆弱性、レジリエンシー(弾力性のある回復力)

【授業内容及び授業方法】

企業経営を取り巻くコンティジェンシーの概要を認識した上で、主にリスクマネジメントの手法を用いながら、事業継続性やレジリエンシー(弾力性のある回復力)をいかに保持するかについて、事例分析も織り交ぜながら概説、最後には経営戦略課題としての位置づけを確認する。なお、講義はe-learningで実施する。

【授業項目】

- 第1部 インTRODクシヨN
- 第2部 コンティジェンシーの定義
- 第3部 リスク・マネジメントの概要
- 第4部 リスク・マネジメントの方法論
- 第5部 事業継続リスク・マネジメント
- 第6部 リスク・マネジメントの実際
- 第7部 今後の方向性

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【成績の評価方法と評価項目】

期末レポートにより評価